

[問い合わせ先]

奄美海上保安部

担当：交通課長 古川

電話：0997-53-5569

令和7年6月13日
奄美海上保安部



来るぞ台風！備えはよいか！？ ～令和7年度 台風海難防止強調運動の実施について～

奄美海上保安部では、本格的な台風時期を迎えるにあたり、海事関係者の台風に対する認識を高めるとともに、広く海難防止思想の普及に努めることで、台風による海難の未然防止を図るため以下のとおり「台風海難防止強調運動」を実施します。

1 実施期間

6月21日（土）から6月30日（月）までの10日間

2 重点事項

- (1) テレビ、ラジオ、インターネット、AIS、海の安全情報等による台風情報の早期把握及び継続的な情報収集の励行
- (2) 早期避難及び保船対策の励行
- (3) 走錨事故防止対策の徹底
- (4) 適切な避泊場所の選定及び事前調査・検討の実施
- (5) 養殖漁場、港湾工事施設からの資材等の流出防止措置の実施
- (6) 国際VHF（ch16）の常時聴取
- (7) 小型船の陸揚げ・固縛

3 活動内容

- (1) 報道機関を活用した周知
- (2) ポスター、リーフレット等による周知
- (3) 自治体広報誌等を活用した周知
- (4) 名瀬港・古仁屋港台風・津波等対策委員会の開催
- (5) 船舶、漁業協同組合等を訪問しての周知
- (6) 海難防止講習会、訪船指導等
- (7) 走錨事故防止ポータルサイト等ホームページによる周知

台風海難を防ぐためには・・・



時間に余裕を持って安全な海域に避難しましょう。VHFの常時聴取はもちろん、錨泊をする場合は走錨にも十分注意してください。

テレビやラジオ、海の安全情報等を利用し、最新の情報収集に努めましょう。



非常に強い台風でも陸揚げされていた船舶に被害が無かった事例もあります。小型船舶は陸揚げ・固縛が一番です。大切な船を守るためにも万全な対策をしましょう。



隣どおしの船舶を寄せ合って係留強化していたことで、比較的少ない被害で済んだ事例もあります。

陸揚げが困難な場合には台風の影響が少ない港内の船舶密集エリアで係留を強化しましょう。

自己救命策3つの基本も忘れずに！



来るぞ台風！ 備えはよいか？

走錨注意！



台風対策は早めの備えが重要です！
作業中はライフジャケットを着用して自身の安全も守りましょう！

台風海難防止強調運動

<走錨事故防止関連情報>

1 走錨事故防止ポータルサイト（海上保安庁HP）

ホーム	海の安全 基礎知識	資料 イベント等	募集・申請 各種手続	任務・装備・予算等 組織・政策	広報	ご意見・ご質問
-----	--------------	-------------	---------------	--------------------	----	---------

[ホーム](#) > [任務](#) > [海上交通の安全](#) > 走錨事故防止ポータルサイト

走錨事故防止ポータルサイト



このページでは、走錨事故防止に役立つ以下のような情報を掲載しています。

- ・湾外避難、湾内の錨泊制限等を勧告・命令する制度（海上交通安全法等の改正について）
- ・走錨事故防止ガイドライン&地域情報
- ・湾内等の錨泊船舶の状況図
- ・灯台等で観測した風向・風速等に関する情報
- ・海洋状況表示システム「海しる」など 等々

奄美大島海域における地域情報

奄美大島海域における地域情報

各港に港則法第39条第4項に基づく避難勧告が発せられるとき、下記区域内での錨泊は、原則できませんので注意してください

港	避難勧告	対象船舶及び措置
名瀬港 吉仁屋港	風速25m/s以上の暴風域が名瀬港に接近することが予想される場合など	総トン数500t以上の船舶は、港外避難
吉仁屋港	風速25m/s以上の暴風域が大島海峡等に接近することが予想される場合など	総トン数1,000t以上の船舶は、原則として瀬戸崎南端から赤土南端を結んだ線より沖合に避難

奄美大島海域の特徴
奄美大島で船舶の錨泊に適している箇所としては、焼内湾、大島海峡や薩川湾がある。その他、奄美群島内には奄美大島を除き台風錨泊に適した場所はない。

錨泊地	錨泊海域の特徴
焼内湾	奄美大島北西岸の西端付近にある湾で、幅約4~1.3海里で東方へ約6海里入り込んでいる。この湾は高い山脈に囲まれ、海岸は一般に決断が急峻な崖になっている。湾内は狭く水深も浅いため大型船舶の錨泊地としては不適当である。湾の中央付近には南北に横断する海底線があり、また、湾奥部には養殖施設がある。
薩川湾	大島海峡の南西部にある比較的大きな湾で、海峡を挟んで久慈湾（湾内沿岸に養殖施設が多数あり錨泊地としては適さない。）と向かい合っている。この湾は、各方向の風をよく防いで、水深が深いため大型船舶の錨泊地としては不適当で、主に総トン数10,000t以下の大型船舶が台風の時の錨泊に利用している。湾内の沿岸部には養殖施設がある。
大島海峡	奄美大島南西岸と加計呂群島（カケロ群）島の北東岸との間の海峡で、長さ約13海里、幅約0.5海里～2海里の海峡である。この海峡は、台風時の海峡避難域であるが、久慈と吉仁屋の前線に外れ、いずれも狭い湾に水深が深すぎるため錨泊の選定に当たっては注意を要する。この海峡の両側には、多数の養殖施設がある。

各種お問い合わせ先
 走錨事故防止対策について 第十管区海上保安本部 交通部 ☎ 099-250-9800
 名瀬港の避難勧告について 航行安全課
 吉仁屋港の避難勧告について 奄美海上保安部 交通部 ☎ 0997-53-5569
 吉仁屋海上保安署 ☎ 0997-72-2999

海域毎の走錨事故防止対策

▼海域をクリック



▼管区をクリック

- + 共通
- + 第一管区
- + 第二管区
- + 第三管区
- + 第四管区
- + 第五管区
- + 第六管区
- + 第七管区
- + 第八管区
- + 第九管区
- + 第十管区
- 地域的情報
 - 鹿兒島湾 **奄美大島海域** 宮崎沖 串木野沖 八代海 種子島・屋久島
- 臨海部の施設周辺海域における対策
 - ・志布志国家石油備蓄基地 ・ENEOS喜入基地
- リアルタイム/予報情報
 - ・海の安全情報（気象現況、ライブカメラ）
 - ・海しる（海上風（数値予報）、有義波高（実況・予想））
 - ・台風情報（気象庁）
- + 第十一管区

走錨に起因する事故防止に役立つ情報

- ◆国土交通省
 - ・走錨リスク判定システム（愛称：錨ing（イカリング）、海事局）
※船員が自船の走錨リスクをスマホ等により判定できるシステム
 - ・リアルタイムナウファス（港湾局 全国港湾海洋波浪情報網）
 - ・運輸安全マネージメント
 - ・荒天時の走錨による事故防止対策について
 - ・運輸安全委員会（船舶）
非常に強い台風時の走錨による事故防止対策について（h31.4報告書）
- ◆気象庁
 - ・台風情報 ・外洋波浪予想図
- ◆日本船長協会
 - ・投揚錨作業と事故防止、日本近海の気象海象、等の船員教育に役立つ動画情報 等
- ◆その他
 - ・荒天時の走錨等に起因する事故の再発防止に係る有識者検討会（海上保安庁 H30D~R1D）



錨ing マスコットキャラクター イカリング君



錨ing Webアプリ
PC版ダウンロード申し込み

走錨に注意！！

令和6年大島海峡内で走錨による船舶海難が2件発生しました。

(①台風避泊中 ②冬場の荒天避泊中)

台風や冬場の低気圧の荒天により走錨が発生した場合、沿岸への乗揚げや漁業施設、橋脚などの構造物へ衝突し、大災害に発展することがあります。

避泊する船舶は、次のことを確認し、走錨事故を防止しましょう。



✓ 投錨位置の選定

- ❑ 錨かきの良い場所（砂・泥）を選ぶ
- ❑ 波浪等外力の影響の少ない場所（台風の進路等に注意）を選ぶ
- ❑ 陸岸の距離、障害物、他船への適切な距離を確保する

錨泊方法の検討

荒天避泊における錨泊方法は、強風の風速及び風向の時間的な変化、波浪状況及び泊地の状況を考慮し錨泊方法（**単錨泊**・**振れ止め錨泊**・**双錨泊**）を検討しましょう

✓ 守錨時の留意事項

- ❑ 主機及び揚錨機の準備、内部連絡体制の確立
- ❑ 最新の気象情報の入手
- ❑ 定期的船位測定の励行
- ❑ 十分な見張り（自船及び他船の走錨監視等）
- ❑ 国際VHF（ch16）の常時聴取



海上保安庁

奄美海上保安部、古仁屋海上保安署

R7.6